

G7 外務・開発大臣会合

5月3日(月)～5日(水) ロンドン

inout
&

5月3～5日、ロンドンにおいてG7 外務・開発大臣会合が開催された。会合には茂木敏充外務大臣をはじめ G7 各国外相および EU 外務・安全保障上級代表が出席し、一部セッションにはアウトリーチ国としてオーストラリア、インド、韓国、南アフリカ、ブルネイ (ASEAN 議長国) の外相が参加した。

会合では、北朝鮮、中国、ミャンマー、ロシア、ウクライナ、インド太平洋などの地域情勢のほか、「開かれた社会」のテーマの下、自由や民主主義に関する諸課題などについても議論した。また、途

上国を含めた新型コロナワクチンの公平なアクセス確保のため、茂木外相から 6 月に日本が Gavi (低所得国における予防接種支援を行う官民連携パートナーシップ) と共催する「COVAX ワクチン・サミット」への参加および資金拠出を各国に呼びかけるとともに、日本として、世界の一人一人にワクチンを届ける「ラスト・ワン・マイル支援」に約 8000 万ドル (約87億円) の支援を決定したことを紹介した。



会場に到着した茂木外相(左)を出迎えるラープ英外相

日米韓外相会合

5月5日(水) ロンドン



日米韓外相会合に出席する茂木外相(左端)、プリンケン米国国務長官(中央)、鄭韓国外交部長官(右端)。

茂木敏充外務大臣は、5月5日、アントニー・プリンケン米国国務長官および鄭義溶韓国外交部長官との間で日米韓外相会合を行った。茂木外相は、米国の対北朝鮮政策レビューの完了直後にこの会合が開催されたことを歓迎する旨述べ、その後、プリンケン国務長官から、米国の政策レビューの結果について詳細な説明があった。そのうえで、三者間で北朝鮮の完全な非核化へのコミットメントを再確認し、今後も緊密に連携して対応することで一致した。さらに、茂木外相から拉致問題について理解と協力を求め、支持を得た。